

特集 土岐市の公共交通

日本の地域社会が人口減少や高齢化という大きな変化に直面する中、公共交通も運転手不足や利用者の減少を背景に、多くの地域でサービスの縮小や廃止が広がっています。

公共交通は地域住民の移動を支える重要な社会基盤です。今回の特集は、土岐市の公共交通が抱える課題と、持続可能な交通ネットワークを築くための具体的な取り組みを紹介します。

図 産業振興課（内線321）

公共交通路線図



いま、市内を走る公共交通



▼市民バス

市内を複数の路線でつないで運行しています。運賃は一回の乗車につき200円（一部区間は400円）。

▼民間路線バス（東濃鉄道）

東濃鉄道が運行し、市内経路に加え、近隣市との幹線を運行しています。

▼駄知どんぶりバス

主に高齢者や住民の買い物など日常の移動を支援するため、地域が主体となって曜日、時間を決めて駄知町内を運行しています。

▼予約あいのリタクシー「のってこ」

市域各地の停留所を発着地として運行する予約制乗合タクシー（デマンド交通）。運行時間やルートが決まっています。予約に応じて運行しています。運賃は一回の乗車につき500円。

楽しく働いています

子どもの頃から交通手段としてバスを利用していました。いつも笑顔に向けてくれる運転士さんに憧れを抱き、一度はほかの業種に就職したものの、やっぱり運転士になりたいと思い、令和6年8月に東濃鉄道に入社しました。運転士となって一年経ちますが、利用者の方とあいさつや自然な交流を持てるのが、とてもうれしいです。みなさんが安心して乗車してもらえるよう、笑顔でがんばります！



東濃鉄道 令和6年入社
ドライバー 藤原圭介さん

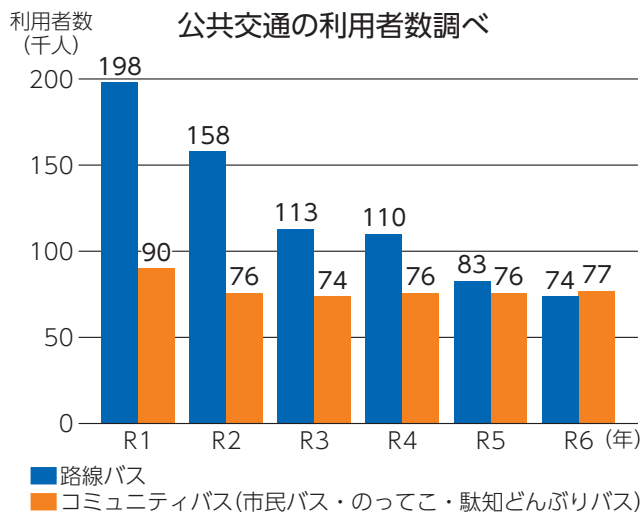


公共交通の情報は、市ホームページ（HP1004727）に掲載しています。

公共交通の現状

土岐市では、公共交通の利用者減少が深刻化しています。特にコロナ禍以降、民間路線バスの利用者は激減し、減便や廃線を余儀なくされました。さらに「2024年問題」に伴う運転手不足が状況を悪化させ、令和6年度には廃線となった路線を市民バスが引き継ぐこととなりました。加えて、市民バスも収益の悪化を受け、令和7年度に運賃改定をおこなうこととなりました。こうした、公共交通の利用者の減少が運行本数の減少などを招き、それが更なる利用者の減少へとつながる“負のスパイラル”に陥っています。

市民の皆さんとともに「第二次土岐市地域公共交通計画」を策定し、皆さんの生活に寄り添い、支えとなれるよう、公共交通事業を進めます。



これからの公共交通を考える

Aーデマンド交通実証実験

泉北団地―土岐市駅周辺

市内でも高齢化が顕著で、坂が多いことから公共交通が欠かせない泉北団地（泉が丘町）と土岐市駅周辺を結ぶ「Aーデマンド交通」の実証実験を開始します。

特徴

- ・Aーシステムで利用者の予約内容から最適なルートや時間で運行します。
- ・事前の会員登録と予約が必要です。
- ・タクシー車両による運行で、乗り合いによる交通サービスです。

実験期間

10月1日（水）～令和8年3月31日（火）
※期間中は、市民バス「泉が丘線」の2便（土岐市駅前発 午前9時56分、午後1時45分）を休止します。

運行エリア

泉北団地エリア、土岐市駅周辺エリアの指定乗降場所
運行時間 午前10時～午後4時
運賃 300円（一回の乗車）

予約方法や運行エリアなどの詳細は、市ホームページ（HP1010592）をご覧ください。



自動運転車がやってくる！

移動手段の可能性、安全技術の検証、運転手不足の解消を目指す重要なプロジェクトとして、最先端の技術を活用した自動運転の公道実証実験運行を行います。

この機会に未来の交通を体験してみませんか？

実験期間

9月28日（日）～10月11日（土）
※9月28日（日）は市役所で開催されるイベント「わくわくワークときめきランド」で実証運行をします。

運行ルート

土岐市駅～土岐市役所
※途中停留所：中央町・土岐中央橋
運行便数 一日9便
運賃 無料

実証運行は、低速運転（速度18km/h）で行います。乗務員が同乗し、緊急時の車両操作を行います。



実証実験の情報は、市ホームページ（HP1010199）をご覧ください。



皆さんの声を届けてください

土岐市では公共交通をより良いものにするために、実験に参加された方の感想や公共交通に対するご意見を募集しています。ぜひ、皆さんの声を届けてください。



意見募集フォーム